

園芸用殺菌剤

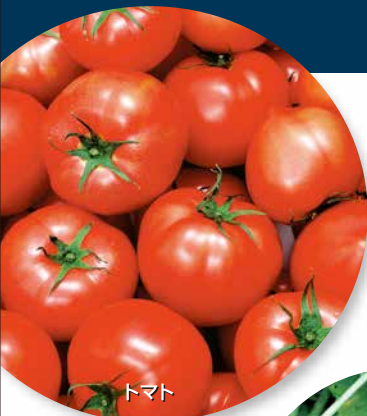
カンパーシン®

水和剤

殺菌剤分類 24、M1

農林水産省登録 第15744号

常備薬



トマト



だいこん



ごぼう



ピーマン



かんきつ



にんじん



茶



キャベツ



にんにく



きゅうり



ねぎ



すいか



たまねぎ

野菜・茶・果樹など
さまざまな作物の
病害防除に!!

JAS(日本農林規格)
が定める
有機農産物生産にも
使用することができます。

カンパーシンは三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社の登録商標です。

特長

- ①『塩基性塩化銅』と『カスガマイシン』の混合剤で安定した効果が期待できます。
- ② 2つの有効成分の働きにより、糸状菌および細菌による多くの病害に対して優れた効果を示します。

●有効成分

●塩基性塩化銅	75.6%
〔銅として〕	45.0%
●カスガマイシン塩酸塩	5.7%
〔カスガマイシンとして〕	5.0%

●毒性——普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)



三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社

適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫	希釈倍数 (倍)	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	カスガマイシンを含む 農薬の総使用回数	
かんきつ (みかんを除く)	かいよう病	1000	200～700	収穫45日前まで	5回以内	散布	5回以内	
みかん				収穫7日前まで				
な し	黒星病 花腐細菌病			収穫後 (10月～11月)	2回以内		2回以内	
も も	せん孔細菌病 縮葉病	500		開花前まで	3回以内		3回以内	
び わ	灰斑病 がんしゅ病	1000		幼果期まで				
キウイフルーツ	かいよう病 花腐細菌病	500		休眠期	4回以内		4回以内 (樹幹注入は1回以内)	
				発芽後叢生期 (新梢長約10cm)まで				
いんげんまめ	かさ枯病	1000	100～300	収穫30日前まで	3回以内		3回以内 (種子粉衣は1回以内)	
あ ず き	褐斑細菌病 茎腐細菌病			収穫前日まで	5回以内		5回以内	
きゅうり	うどんこ病 斑点細菌病、べと病							
す い か	うどんこ病 褐斑細菌病 果実汚斑細菌病			収穫3日前まで				
メ ロ ン	うどんこ病 斑点細菌病 果実汚斑細菌病			収穫前日まで	5回以内		5回以内	
ト マ ト ミニトマト	葉かび病 輪紋病、軟腐病 疫病、斑点細菌病 かいよう病							
ピーマン とうがらし類	うどんこ病 斑点細菌病 斑点病			収穫7日前まで	4回以内		4回以内	
キャベツ	黒腐病、軟腐病 黒斑細菌病							
セルリー	軟腐病、斑点病			収穫14日前まで	3回以内		3回以内	
ブロッコリー	黒腐病							
だいこん	軟腐病 黒斑細菌病 ワッカ症	500～800	100～300	収穫7日前まで	3回以内		4回以内 (種いも浸漬は1回以内、 植付後は3回以内)	
ね ぎ	軟腐病							
たまねぎ	軟腐病	800		収穫7日前まで	5回以内			
ご ぼ う	黒斑細菌病	800		収穫14日前まで	3回以内			
レ タ ス 非結球レタス	腐敗病 斑点細菌病	500～1000		収穫7日前まで	4回以内			
な ば な 類	黒腐病			収穫14日前まで	3回以内			
にんにく	春腐病	800		収穫7日前まで	5回以内			
ばれいしょ	軟腐病	800～1000		25	収穫7日前まで		5回以内	
	疫病							
てんさい	褐斑病	200		100～300	収穫開始7日前まで 収穫21日前まで		3回以内	
に ん じ ん	黒葉枯病、軟腐病 斑点細菌病	1000	2回以内					
	オクラ		葉枯細菌病					3回以内
	メキャベツ		黒腐病					
茶	輪斑病、赤焼病	500～1000	200～400	摘採14日前まで	2回以内			
	新梢枯死症 (輪斑病菌による) 褐色円星病 炭疽病							
ば ら	うどんこ病	1000	100～300	発病初期	6回以内			
ほおずき	軟腐病 斑点細菌病							
ゆ り	軟腐病							
たばこ	疫病		100～180	収穫10日前まで	2回以内			

効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせて薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布してください。
- 石灰硫黄合剤などアルカリ性薬剤、チオファネートメチル剤との混用はさけてください。
- 本剤は無機の銅を含むため、うり類、レタス、非結球レタス、だいこんに対して薬害を生ずるおそれがあるので、下記の事項に十分注意してください。
 - 幼苗期又は生育の初期は特に生じやすいので中期以降の散布にしてください。
 - 高温時の散布は症状が激しくなることがあるので避けてください。
 - 連続散布すると葉の周辺が黄化したりすることがあるので過度の運用を避けてください。
 - 炭酸カルシウム剤の所定量の添加は、薬害軽減に有効であるが、収穫間際は収穫物に汚れるを生ずるので留意してください。
- てんさいに使用する場合、薬害を生ずるおそれがあるので所定の希釈倍数を厳守してください。特に高温時には薬害を生じやすいので朝夕の涼しい時に所定範囲の低濃度で使用してください。
- ばらに使用する場合、葉に散布液の汚れが残ることがあるので注意してください。
- かんきつに使用する場合、薬害(スタメラノーズ)の発生を防止するために、炭酸カルシウム水和剤を加用してください。特に果実の着生期の使用では厳守してください。
- ピーマンのうどんこ病防除に使用する場合、発病後の散布は効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布してください。
- 核果類(ももを除く)、れんこん、白菜等には薬害を生ずるおそれがあるのでかからないように注意して散布してください。
- キャベツに使用する場合、品種、作型により薬害を生ずるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- いんげんまめ及びあずきに使用する場合、高温時の散布は薬害を生ずるおそれがあるので避けてください。
- 発芽後のキウイフルーツに使用する場合、葉に軽い薬害を生ずることがありますが、実用上の問題はありません。但し、使用時期が遅くなると葉や果実に実害を生ずるので使用時期を厳守してください。
- びわに使用する場合、果実に薬害を生ずるおそれがあるので、幼果期(果実の横径約1cm)以降の散布は避けてください。
- ももに使用する場合、開花前までに使用してください。開花期以降は銅による薬害が生じることがあるので散布しないでください。
- ブロッコリーに使用する場合、生育抑制や葉縁の黄白化等の薬害を生じるおそれがあるので、所定の希釈倍数を厳守してください。
- にんにくに使用する場合、葉に薬害を生ずることがあるので、高温時(6月以降)の多数回散布は避けてください。
- みずかけな(水掛菜)に使用する場合、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- てんさいに対して希釈倍数200倍(使用液量25ℓ/10a)で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用してください。

● 使用前にラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。● 使用後の空袋・空容器は圃場や用水路などに放置せず、適切に処理してください。● 防除日誌をつけましょう。

お問い合わせ/ご注文は

**三井化学クロップ＆ライフ
ソリューション株式会社**東京都中央区日本橋 1-19-1 日本橋ダイヤビルディング
ホームページ <https://www.mc-croplifesolutions.com>

カッパーション 検索